

城北中学校区新統合小学校

建設基本計画

(イメージ素案)

飯 山 市

目 次

※現状、目次のページは未入力です

はじめに	-----
1章 基本計画の位置付け	-----
2章 飯山の新たな学校づくり計画	-----
3章 飯山市第2次教育大綱	-----
4章 基本計画	
1 教育方針、教育内容	-----
2 城北中学校区新統合小学校づくりの コンセプト（考え方）	-----
3 開校に向けた取り組み	-----
4 スケジュール	-----
5 計画地の状況	-----
6 学校規模	-----
7 主な想定施設	-----
8 施設の特徴	-----
9 通学路・通学方法	-----
10 児童クラブ	-----

城北中学校区新統合小学校建設基本計画

1章 基本計画の位置付け

1章 基本計画の位置付け

飯山の新たな 学校づくり計画

「飯山市保育園・学校課題検討委員会」「飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会」の答申内容に基づき、令和3年1月に策定いたしました。

○飯山の新たな学校の目指す姿

- ① 目指す姿 子どもの目指す姿「自己教育力を持ち、自分の夢の実現に向け、新たな時代を生き抜く力を持つ子ども」
- ② 小学校適正規模について
- ③ 新たな学校づくりの施策
- ④ 小学校配置
城南・城北中学校区毎それぞれに1校の統合小学校配置としたい
- ⑤ 統合小学校の具体的位置・整備方法等について
「城北中学校区統合小学校については、「城北中学校グランド」が最適地であることなどから、新設による統合小学校整備を進めていきたい。
- ⑥ 中学校適正規模・配置等について ほか



基本計画

- 「飯山の新たな学校づくり計画」に基づく、必要な機能、施設の特色や、スケジュールに関する基本的な考え方
- 教育方針、教育内容に関する基本的な考え方
- 通学路、通学方法に関する基本的な考え方
- 児童クラブ整備に関する基本的な考え方

基本設計

- 新統合小学校の建物の構造や配置、間取り、外観、面積、概算工事費、想定年間維持管理費などを基本設計図書としてまとめるもの
- 新統合小学校の具体的な完成時の姿が明確になるのはこの段階



実施設計

- 新統合小学校の校舎やグラウンドなどの詳細な設計や工事費の積算を行うもの

2章 飯山の新たな学校づくり計画

少子化等により、飯山市の学校・保育園についても多くの課題が出てきていることから、これらの課題に取り組むため、検討委員会を設置し審議いただき、答申を受けてきました。

●「飯山市保育園・学校課題検討委員会」

平成29年7月に立上げ、飯山市の子どもにとって望ましい保育・教育環境の将来像について2年かけて審議いただき、平成31年1月に答申がなされました。

●「飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会」

上記「課題検討委員会」の答申を受け、具体的な適正規模等について検討いただくため、令和元年7月に立上げ、学校の適正規模・配置等の具体的内容について審議いただき、令和2年1月に答申を受けてきたところです。

この答申内容に基づき、飯山市教育委員会として、子どもの目指す姿を「自己教育力を持ち、自分の夢の実現に向け、新たな世代を生き抜く力を持つ子ども」と定め、飯山の新たな学校づくり計画を策定しました。

小学校適正規模について

児童にとって必要な環境として、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、協力し合い、切磋琢磨することは重要であり、上記に示された「子どもの目指す姿」の観点からも1学年複数学級による交流の確保とグループ学習なども考慮した1クラス18人（4人以上4グループなど）以上のクラス編成が望ましい。

通学方法について

教育委員会で現在の通学方法の見直しも含め検討をした後、「通学方法検討委員会（仮称）」を立ち上げ、決めていきたいと考えます。

児童クラブ等について

小学校統合に伴い、児童クラブ・児童センターについても統合が必要になります。

城北中学校区統合小学校の新たな児童クラブ・センターについては、統合小学校と併設するのか、歩ける範囲に施設を整備するのか、どんな機能を整備するのかなどの検討が必要となりますので、本委員会で検討します。

保育園の適正規模・配置等について

保育園については、あきは・しろやま保育園の令和3年4月統合が決定しており、しろやま保育園施設を使つての新保育園開設に向けて、現しろやま保育園の整備を進めているところです。

他の保育園については、答申にあるとおり、統合小学校の位置等が決定した段階で適正規模・配置等について新たな委員会を設置し検討していきたいと考えます。

3章 飯山市第2次教育大綱

目指すべき姿

『自己教育力を持ち、自分の夢の実現と、持続可能な新たな時代を創る子ども』の育成

目指す姿実現に向けて

目指す姿実現に向けて、施策の柱を中心に進めていくことが大切です。

施策の柱として、これまでの5つの柱に「飯山の新たな学校づくり計画」で示している4項目を加え、SDGsの目標も加味しながら進めます。

- 夢に向かい、自分の道を切り拓き、たくましく生き抜く力を育てる教育の実践
- ふるさとを知り、ふるさとを愛する、地域に根ざした教育の実践（ふるさと教育）
- 国際感覚を養い、新しい時代に生きる力を育てる教育の実践（グローバル教育・ICT教育）
- 個性や多様性を尊重し、共生社会をつくるための豊かな人間性を育てる教育の実践
- 地域・家庭・学校が連携して教育力を高め、地域に学ぶ生涯学習の実践



- 基礎的学力を身につけることのできる教育（基礎的学力の保障）
- 答えのない問いを自分で考え解決する、「自己教育力」が伸びる教育（自学自習の態度）
- 級友と討論し、集団で多様な考え方にふれ、課題解決をする教育（対話的な学び）
- 小学校低学年から、将来なりたい自分をみつけ、学び続けるキャリア教育（小中高連携）



- ◎全ての子どもが、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い小中学校教育の推進（持続可能な社会づくり）

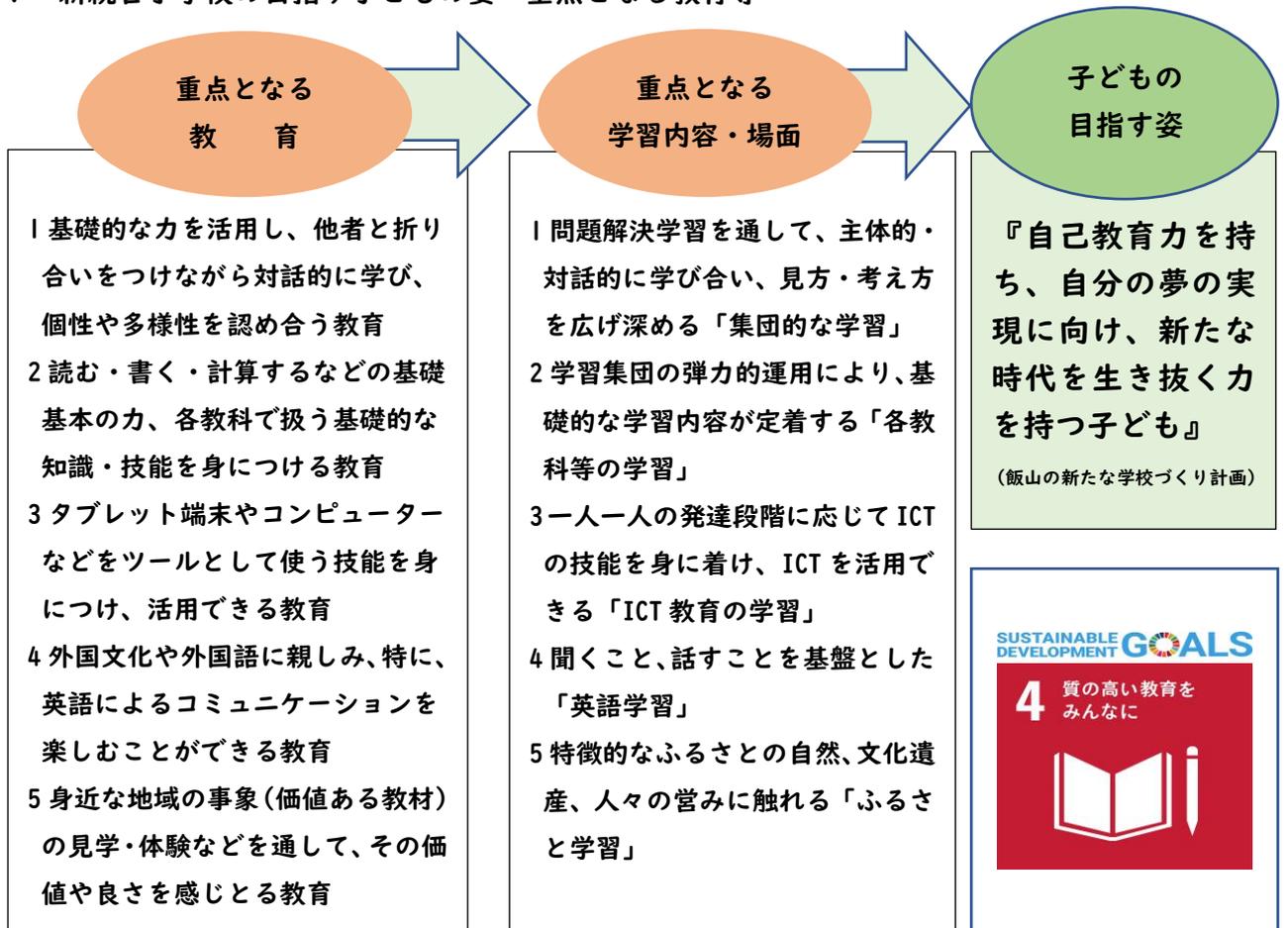
第2次教育大綱の柱

「目指す姿」に向けた、子どもから大人まで全ての市民を対象にした飯山市第2次教育大綱推進のための6つの施策の柱

- I 『生き抜く力』を育むため、「自己教育力」と多様な考えに触れ課題解決する教育の実践
- II 公正で質の高い学力の保障と、将来なりたい自分のために必要な資質を磨く教育の実践
- III 国際化・ICT化とともに地球環境に対応し、自らの能力を磨く教育の実践
- IV ふるさと飯山を知り、飯山を愛し、飯山を担う「いいやまっ子」に育つ教育の実践
- V お互いを知り、助け合う心が育ち、共生社会が実現するための教育の実践
- VI 地域・社会に支えられ、子どもが飯山を誇りに思う生涯学習・生涯スポーツの実践

4章 基本計画

1 新統合小学校の目指す子どもの姿・重点となる教育等



新統合小学校の目指す教育を実現するための取組

- ① ◎ 児童・生徒の発達段階に配慮し、学習内容の系統性を意識した『小中連携カリキュラム』の作成
- ② ◎ 幼保→小、小→中の接続を大切にした、幼保から高校までの『キャリア教育』の道筋の明確化
- ③ ◎ 原学級集団を基盤としながら、教科担任制、少人数学習、習熟度学習が、学習内容や教科等によって『弾力的に運用』できる教育環境(場、人、もの)の具体化
- ④ ◎ 小学校1年生から中学校3年生までを見通した『小中連携ICT教育カリキュラム』の作成
- ⑤ ◎ 小学校3年生から中学校3年生までを見通した『小中連携英語教育カリキュラム』の作成
- ⑥ 「ふるさと学習副読本」を作成し、4つの現小学校の地域教材が、中学卒業までに履修できる『ふるさと学習カリキュラム』の作成
- ⑦ ICT教育や小学校英語・英語活動など、近年新たに導入された教育の実現に向けた教員研修の計画
- ⑧ ◎ ICT教育や英語教育の加配教員を中心とした、専門的で充実した教育研究
- ⑨ ◎ 育てたい子ども像へのアプローチがしやすい、新小学校の『日課表』や『時間割』の編成
- ⑩ ◎ 共生社会の担い手となるために、隣接の福祉施設・中学校等との交流教育

(◎は、統合小学校の開校により、一層の推進が期待できる取り組み)

4章 基本計画

2 城北中学校区新統合小学校づくりのコンセプト（考え方）

コンセプト		主 な 内 容
1	安心・安全でほっとできる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経路も含め、避難しやすい施設 ・ 校地内での交通事故を防ぐ校舎配置 ・ 不審者侵入に備えた職員室等の配置・防犯カメラ設置等、十分な防犯機能の整備 ・ 冬期間の降雪・積雪にも快適に過ごすことができる施設 ・ 高断熱建材、冷暖房設備の設置など、快適な学習環境の整備
2	ICT教育・英語教育や学力向上と学力保障を進める学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミングを含めたICT教育、英語教育が快適に実践できる学校 ・ 高学年における教科担任制に配慮した施設（準備室、学習室など） ・ 放課後児童クラブ等との連携を配慮した学校
3	ユニバーサルデザインを考慮した学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべくフラットな床、広い廊下・昇降しやすい階段 ・ 子どもの多様性に対応した空間の整備 ・ エレベーターの設置
4	地域交流も含めふるさと学習を積極的に進める学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が活用したり地域住民や中学生が児童と交流したりできる空間・体育館等 ・ 飯山市や城北中学校区地域の魅力を学べる空間（室など）
5	キャリア教育を含め小中連携を推進する学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校で共有可能な施設・空間 ・ 飼育栽培、スキー学習を始め、多様な学習体験ができる施設
6	大規模感染症や大災害など非常時に対応できる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大地震にも対応できる耐震化構造を有した学校 ・ 大規模感染症などにも対応できる学習環境（自宅でのオンライン学習など）の整備 ・ 災害時の避難場所としても対応できる学校施設 ・ 停電時でも使用できる学校施設
7	カーボンニュートラルやSDGsに対応する環境に配慮した学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然景観等に配慮した学校 ・ 太陽光発電等の再生可能エネルギーを利用した設備 ・ 断熱・節電等、エネルギーに配慮した施設 ・ 長野県産材を活用した施設

4章 基本計画

3 開校に向けた取り組み

開校に向け以下の内容に取り組みます。

(1) 新統合小学校の基本設計【令和3年度】

新統合小学校建設基本計画検討委員会の意見を取り入れ、建設基本計画に沿った基本設計を行う。

(2) 新統合小学校建設基本計画検討委員会での学校づくりの検討及び基本計画策定【令和3年度】

子どもが夢と希望をもって通いたくなる学校、また保護者が通わせたいと思う学校づくりに向け、新統合小学校の校舎や設備、児童クラブの場所等について市と地域住民で組織する建設基本計画検討委員会における検討、地域懇談会での住民への説明・意見聴取を経て、新統合小学校建設基本計画を策定する。

(3) 新統合小学校の実施設計及び建築工事【令和4年度～6年度】

令和4年度に実施設計、5～6年度に校舎建築工事を行う。

(4) 通学方法の検討【令和4年度】

通学方法検討委員会において、新統合小学校の通学路や通学方法等を検討する。

(5) 各種小中連携カリキュラムの検討【令和5年度～6年度】

小中連携カリキュラムのほか、ICT教育・英語教育・ふるさと学習の各小中連携カリキュラムの検討。

(6) 開校準備【令和5年度～6年度】

新統合小学校の校名・校章・校歌の選定、備品等の整備及び移動計画の作成、統合する4小学校の児童交流等を行う。

(7) その他

既存4小学校の閉校記念事業及び後利用の検討、城北中学校区内の保育園統合の検討を行う。

4 スケジュール

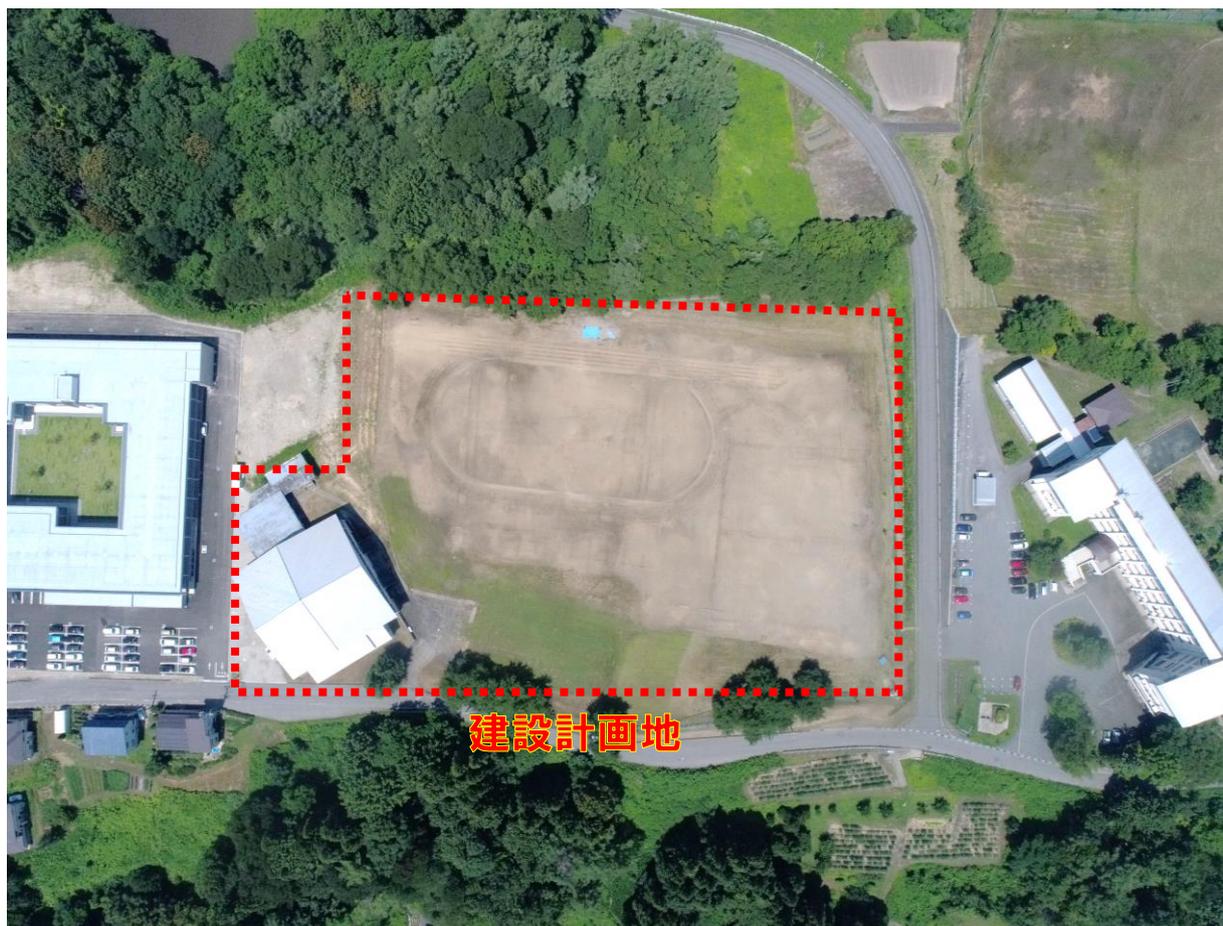
	R3	R4	R5	R6	R7
建設基本計画等	プロポーザル 審査委員会 建設基本 計画策定				新統合小学校開校
建設基本計画 検討委員会 (児童クラブ設置含)	建設基本計画検討 委員会での検討				
統合小学校 整備関係	基本設計 地質調査 敷地調査 レベル測量	実施設計	建設業 者選定・ 契約	統合小学校整備管理 統合小学校新設整備工事	
開校準備	教育委員会での 通学方法検討	開校準備委員会 通学方法検討委員会	校歌校章作成等 各校交流他		
	小中連携カリキュラムの研究		小中連携カリキュラムの実施準備		
その他		保育園統合 委員会設立	保育園統合委員会（随時開催）		
			学校施設後利用検討・委員会設置		

4章 基本計画

5 計画地の状況

所在地	飯山市大字照里字隠里 2912-1 ほか
面積	約20,000㎡
用途地域	無指定
防火・準防火地域	指定なし
建ぺい率	—
容積率	—
周辺道路等	(北側) 市道 7-507 号線 幅員 6.0m+歩道 2.5m (東側) 市道 7-215 号線 幅員 5.0m
道路斜線	—
隣地車線	—
埋蔵文化財	照丘遺跡

○新統合小学校建設計画地の現況写真



4章 基本計画

6 学校規模

小学校統合による学年毎の児童数及び県学級編成基準35人での想定学級数は以下のとおりです。

学校名		7年度		12年度(推計)	
		児童数	学級数	児童数	学級数
城北中学校区 新統合小学校	1学年	42	2	30	1
	2学年	41	2	34	1
	3学年	34	1	34	1
	4学年	42	2	39	2
	5学年	38	2	40	2
	6学年	56	2	42	2
	小計	253	11	219	9
	特別支援		4		4
	計	253	15	219	13

4章 基本計画

7 主な想定施設

教室	普通教室（12）、特別支援教室（4）、多目的教室（学習室（2）、児童会室等）
特別教室	図書室、理科室及び理科準備室、図工室及び図工準備室、音楽室及び音楽準備室、家庭科室（調理室・被服室・家庭科準備室）、外国語教室、地域交流室（コミュニティスクール、地域ボランティア、ふるさと学習資料の展示場等）
管理諸室	職員室、印刷室、校長室、事務室、会議室、保健室、教育相談室、給食棟（ランチルーム・厨房・休憩室）、資料室 教材室（準備室）、職員休養室、職員更衣室、職員トイレ、放送室、用務員室、機械室
生活交流空間等	玄関、昇降口、階段、廊下、児童トイレ（多目的トイレ含）、手洗い所、多目的ホール（交流空間施設）、エレベーター、シャワー施設
体育施設	体育館、グラウンド、プール（25m+小プール：更衣室等含む）、スキー置場
外構ほか	駐車場（教職員・来賓等：保護者は城北中学校と共有）、駐輪場、花壇、植栽、動植物育成施設、屋外多目的スペース スクールバス等車庫、放課後児童クラブ、その他付属建物等

（ ）内数字は想定室数

4章 基本計画

8 施設の特徴

主な施設整備	城北中学校区新小学校の特徴
外 観	周囲の自然に調和した外観（色・形状）とする。
屋 根	積雪対応の屋根構造とする。また、ソーラーパネルの設置なども検討する。
内 装	内装には、長野県産木材を活用し、「木のぬくもり」のある校舎とする。
普通教室	1学年2学級の30人規模学級を基本に整備し、多様な学習や少人数学習の対応等の工夫をする。
廊 下	ユニバーサルデザインや弾力的な学習ができるよう、多目的スペース兼廊下として有効な幅員を確保する。
階 段	ユニバーサルデザインとして、段差を低くすることや幅員を広げるなど、誰もが昇降しやすい階段とする。
図書室	4校の本が持ち込めるなど、一定規模の大きさの図書室（蔵書1万冊程度）とし、子どもが利用しやすい配置を考慮する。
体育館	中学生の部活や社会体育施設として必要十分な面積を確保し、避難所としての空調機能も考慮したものとする。
動植物育成施設	キャリア教育や生きる力を育てるため、動植物を育成するための環境施設を整備する。
グラウンド	トラックは外周160m、また直線100mがとれる広さのグラウンドとする。また、避難所として自動車乗り入れ可能な構造とする。

4章 基本計画

9 通学路・通学方法

(1) 通学路

- ・通学路の設定
- ・交通事故防止等に係る安全確保
- ・防犯に係る安全確保

(2) 通学方法

- ・徒歩及びスクールバス(マイクロバス)を基本とする。
- ・スクールバス送迎の範囲、バス停の位置等は、※通学方法検討委員会にて検討。
- ・児童の安全な通学のため、夏期(4月～11月)・冬期(12月～3月)によって、スクールバス送迎のあり方を考える(通学方法検討委員会にて検討)。

※通学方法検討委員会・・・令和4年度設置

4章 基本計画

10 児童クラブ

現 状	城北中学校区の4小学校（泉台、常盤、東、戸狩）の放課後児童対策として、それぞれ児童センター、放課後児童クラブが設置されている。				
	学校名	種 別	運 営	定員	備 考
	泉台小学校	放課後児童クラブ	社会福祉協議会	20人	学校併設
	常盤小学校	放課後児童クラブ	NPO法人	30人	民間施設利用
	東小学校	放課後児童クラブ	社会福祉協議会	20人	学校併設
	戸狩小学校	児童センター	社会福祉協議会	30人	勤労青少年ホーム内
課 題	各施設とも、他の目的で建てられた建物を改築、あるいは学校の空きスペースを改修し設置したものであり、老朽化や専用スペースの狭さなどが課題。小学校の統合に伴い、児童センター・児童クラブについても統合が必要。				
今 後 の 方 向	<p>統合小学校児童クラブについては学校併設とし、新小学校のレイアウト等を考慮する中で建設位置を検討していく。</p> <p>施設の機能・特色・運営方法などについては、別途検討委員会を組織し検討していく。（施設の開所時間等についても、城南中学校区児童クラブと整合を図りながら検討）</p>				